

令和7年度第3回 寝屋川市男女共同参画審議会 議事要旨

日時：令和7年11月17日(月)午前10時～12時00分	場所：寝屋川市サービスゲート ゲートルーム1（4階奥）
出席委員：藤田委員長、濱田副委員長、加来委員、後藤委員、瀬戸委員、坂口委員、岸本委員、 下田委員、蔵本委員、鈴木委員、荒木委員、一與委員 計12名 欠席委員：中岡委員	
事務局（担当課）：危機管理部 人権・男女共同参画課	傍聴：2人

1. 男女共同参画審議会委員長及び副委員長の選出
委員長を藤田委員、副委員長を濱田委員に任命
2. 「第5期ねやがわ男女共同参画プラン」について
グループ討議で審議
審議内容：Ⅱ 暮らしの安全と安心の確保
課題2.生涯にわたる男女の健康支援
(1) 生涯の各時期に応じた男女の健康課題への対応
(2) 性と生殖に関する健康と権利の浸透
(3) 心の健康対策の推進

【Aグループ】（藤田委員長、後藤委員、坂口委員、岸本委員、鈴木委員、一與委員）

①課題2.生涯にわたる男女の健康支援

(1) 生涯の各時期に応じた男女の健康課題への対応

主な意見

- ・子宮がん・乳がん以外の健康課題はないのか。
- ・健康相談291件の内容内訳は。
- ・無料クーポンの受診率は。
- ・性の健康教育の実施は行っているのか。
- ・時代の状況に応じた教育内容になっているのか。
- ・検査キットの配布は検査の敷居が低くなり効果的である。
- ・小・中学生へ検査が必要なことをしっかり周知する。
- ・薬物依存に関してのアプローチが少ない。
- ・家庭環境で抱える問題の改善が必要であるが、総合的な対策はあるのか。
- ・啓発グッズとは、具体的にどのような物か。
- ・性感染症を予防するための教育は。
- ・若年層は具体的にどの年代層になるのか。
- ・啓発活動には成人式しかないが、幅広く周知できているのか。
- ・すこやかサポートブックの配架を自治会や老人会なども増やせないか。
- ・健康相談内容の質は評価に伴っているのか。
- ・健康について関心を高めるためにどのような支援があるのか。
- ・健康教室の具体的な内容は何か。
- ・成人病について深く周知していく取り組みや、相談窓口などの予防対策は。
- ・高齢者向けサポートブックはわかりやすく効果的である。より効果的な発信はできないか。
- ・男女の健康をどう捉えて介護予防教室を実施しているのか。
- ・講師の人手不足を地域や大学生のボランティアに呼びかけできないか。
- ・男性の参加者が少ない理由はなぜか。
- ・周知啓発ができていないのではないか。
- ・スポーツ教室の成人男性の参加率はどのくらいか。
- ・休日もしくは祝日に父子のスポーツ教室等を開催できないか。

②課題2.生涯にわたる男女の健康支援

(2) 性と生殖に関する健康と権利の浸透

(3) 心の健康対策の推進

主な意見

- ・すくすく計画書の効果はどのように測定するのか。
- ・男性のアプリの登録、確認状況のチェック機能はできないか。
- ・母子手帳は紙ベースでの記録も大事なため残す方が良い。
- ・産む、育てる性以外にも当てはまるような取り組みを行う。
- ・男性の育休取得の促進はできているのか。参加者にも促進する。
- ・パートナーシップについてパートナー間で話し合える場の提供はできないか。
- ・ゲートキーパー研修には専門的な知識が必要である。
- ・現状を知らせるための周知の機会を増やす。
- ・気軽の相談できる場の提供として、電話相談を実施できないか。
- ・研修することだけが目的化していないか。
- ・予防対策として、映画上映を行い心にダイレクトに響くようにできないか。
- ・自殺志願者がゲートキーパーの存在を知るためにどのようなことができるのか。
- ・家族の悩みを共有できる場所の提供を行う。
- ・心の健康課題が生じる時期やきっかけを伝えているのか。
- ・一定の傾向を分析し、原因となる事象について対策作りするべきである。

【B グループ】（濱田副委員長、加来委員、瀬戸委員、下田委員、蔵本委員、荒木委員）

①課題2.生涯にわたる男女の健康支援

(1) 生涯の各時期に応じた男女の健康課題への対応

主な意見

- ・健康に関心が薄い人へのアプローチが必要である。
例えば行政手続きの最後に情報提供を行うなど。
- ・本人や家族だけでなく職場の理解が必要。
- ・健康教室は誰が講師を行っているのか。
- ・開催時間や場所は配慮されているのか。
- ・罹患した患者へのサポートは。
- ・健康相談を受けた人は受診まで繋がっているのか。
- ・クーポン券送付件数のうち、何名受診したのか割合がわからない。
- ・男性について子宮がんや乳がんに対する知識はついているのか。
- ・更年期について男女ともに知る機会があるのか。
- ・性的マイノリティへの身体理解は進んでいるのか。
- ・薬物依存はこの位置付けで正しいのか。性感染症のおまけになっていないか。
- ・薬物依存への取り組みは成人式のみで十分か。もっと若い世代に向けて必要ではないか。
- ・課題や改善点についてどのあたりが男女共同参画なのか。
- ・健康教室の男女比率は。
- ・すこやかサポートブックについて知らなかった。目立つ場所に配架できないか。
- ・性差なく参加できることをわかりやすく周知するべきである。
- ・アプリを使ったポイント制度はできないか。
- ・元気アップ介護予防ポイント事業の登録者と実活動数の差がつく原因は何か。
- ・民間のジムと提携できないか。
- ・介護コミュニティとしてサロンのようなサポートはできないか。
- ・高齢者は講座にすると参加したくない人が多いので、イベントにする方が良いのではないか。
- ・幼児教室の人手不足について講師はボランティアなのか、報酬があるのかわからない。
- ・男性の参加が少ないため、父親が参加できる日時を考慮できているのか。母親を含め共働きが多いため、日時の設定が重要である。
- ・幼児と高齢者が一緒に参加できるイベントはできないか。

②課題2.生涯にわたる男女の健康支援

(2) 性と生殖に関する健康と権利の浸透

(3) 心の健康対策の推進

主な意見

- ・すくすく計画書の見直し内容が知りたい。
- ・父親の参加率を上げるため、手続きできる制度の情報提供を行う。
- ・ファミリーサポートの周知を行う。
- ・シングルマザーへの支援を強化できないか。
- ・産前産後訪問支援やショートステイの情報周知を行う。

- ・マタニティクラスとリラックスキッチンの男性参加者を増やす工夫が必要である。
- ・はぐくみベビーの男女割合が素晴らしい。これにならったイベントを実施する。
- ・男性が参加しやすいクッキング内容にして、年2回よりも多く開催できないか。
- ・ネットワークの繋がりが無いパパやママに向けたイベントを開催できないか。
- ・当事者の周りの人も含めアクセスしやすい内容にする必要がある。
- ・男性の相談しにくさへの対応を行う。
- ・自殺背景の要因を追求する必要がある。
- ・取り組みが難しい内容だが、研修を増やすべきである。
- ・アルコール依存症やギャンブル依存症、引きこもりは男性が多いため、男性向けの啓発も行う。
- ・男女別世代別でリスクマッピングを行う必要がある。
- ・リーフレットよりもアプリでの啓発の方が効果的ではないか。
- ・保護者向けの相談窓口はあるのか。

<まとめ>

【Aグループ】発表項目→課題2.生涯にわたる男女の健康支援 (1)

全体的に男女共同参画の視点を踏まえた実効性のある改善が必要だと考えました。

44番について、まず健康教室の講師の専門性は必要であるが、人手不足を踏まえボランティアや大学生を呼び込むことはできないか。受診無料クーポンについては送付件数だけではなく、受診率や属性の把握など評価指標を把握することが必要ではないか。また男女の相互理解の観点から、男性更年期や性的マイノリティの身体理解を講座に組み込むこと、職場健診との連携による受診導線の強化ができないか。

45番の性教育・薬物については、高校生中心では遅く、小中学生の段階からの性教育への前倒しを行うべきである。若い世代に多い処方薬のオーバードーズ等の実態に即した薬物対策や家庭環境の課題にも触れる啓発が必要。また啓発グッズの内容も見直しが必要ではないか。

46番の「すこやかサポートブック」については、認知不足を踏まえ、配架場所の拡大及び改善、紙媒体に加えデジタル併用の費用対効果の再検証も必要ではないか。

47番の介護予防については、高齢者も使えるポイントアプリの活用や講座ではなくイベントもしくは世代間交流で参加ハードルを下げることができないか。また民間ジム連携や男性が参加しやすいプログラム設計、介護者サロンや車椅子参加可能なウォーキングなどインクルーシブな場づくりをするべきである。

【Bグループ】発表項目→課題2.生涯にわたる男女の健康支援 (1)

全体的に男女共同参画の目的を再度見直しするべきではないか。

44番の健康教育・検診では、健康相談の内訳の男女別や内容別がわからない。また受診無料クーポンの受診率の把握と公開を行うべきである。男女に分けるだけでなく、個別性やライフステージの視点を具体化した上で、目標設定を行うべきである。

45番の性教育・薬物について、特に性に関することは低年齢化が進みつつあるため、小中学生の段階から性教育への前倒しに加え、民間イベントや商業施設・トイレ掲示など多様な周知活用を行う必要がある。また処方薬の転売・過量摂取などの対応を強化することが必要である。

46番の健康相談について、職場や商工会議所等との連携で効率的に周知できないか。「すこやかサポートブック」については、地域の自治会や老人会等での紙配布を強化できないか。

47番の運動習慣・介護予防では、地域のコミュニティセンター等の近隣拠点での開催を増やし、休日・祝日の枠設定、大学生ボランティア活用で講師不足を補うこと、男性参加が少ない要因の分析をする必要がある。

【Aグループ】発表項目→課題2.生涯にわたる男女の健康支援 (2)(3)

48番の妊産期・育児支援について、母子手帳は長期記録性のある紙をアプリに併用する方針にする。「すくすく計画書」など計画どおりに進むことを前提とした文言の見直しを行う必要があるのではないか。企業への普及啓発を強め、男性育休取得や職場理解を促すこと、父親参加を高めるため育休給付金など情報を講座に組み込むことができないか。望まない妊娠やシングルマザーへの育児への支援を行い、ファミリーサポートの情報提供やパートナーシップの視点を取り入れることが必要である。

49番の自殺対策については、ゲートキーパー研修が目的化しているため、そうではなく自殺志願者がゲートキーパーの存在を知るための周知啓発を積極的に行う必要がある。相談体制の強化や男性が相談しやすくなるよう改善を行い、自助グループ支援や居場所づくり、関係機関との

連携会議を行うべきである。

50 番の依存については、男女・年代別の原因分析と対応策の差別化、相談窓口の利用状況の把握を行い、オンライン相談やアプリ通知など活用し、新たな依存への予防対策が必要である。

【Bグループ】発表項目→課題2.生涯にわたる男女の健康支援 (2)(3)

48 番の育児支援については、父親参加が多いはぐくみベビー関連講座の参加率の多い要因分析を行い、他プログラムへ反映させる。「すくすく計画書」については、見直し内容が知りたい。訪問支援については、産前産後訪問支援やショートステイ等の既存支援メニューの周知強化を図る必要がある。企業や職場を巻き込んだ育児参加促進も合わせて必要ではないか。

49 番の自殺対策については、ゲートキーパーは専門性のある人材育成が必要であり、AI任せにせず人による相談を強化することで予防できるのではないか。また男性が相談しやすい工夫や、相談窓口の利用状況、年齢や性別の把握を行い、早期周知を行う必要がある。映画上映など視覚的や体験的な啓発はできないか。

50 番の依存等については、家族が相談できる場と中学校区単位の拠点等を活かした窓口を設置し、保護者向けの相談窓口にもなるような拡充ができないか。リーフレットよりもアプリでの啓発の方が効果的ではないか。

2. 「その他」

連絡事項